

まどい

2021.10.20
第30号

発行:出雲市消防団
事務局:出雲市消防本部警防課
TEL:0853-21-6923
FAX:0853-21-8241



出雲市消防団初 団員全員招集



豪雨に負けない 消防団の結束力

令和3年7月、停滞した梅雨前線の影響により、大気の状態が不安定となり、島根県東部を中心に豪雨が発生しました。

出雲市も連日の豪雨により、各地で道路の冠水、土砂崩れなどの被害が発生し、なおも継続的な豪雨、被害の拡大が予想されたため、7月12日に「出雲市消防団発足以来、初となる団員の全員招集を行い、消防団の力を結集し、災害対応に従事しました。」

豪雨は、出雲市に床上・床下浸水278棟、土砂崩れ208件などの甚大な被害を引き起こしました。そのような豪雨の中、足場も視界も悪い状況にも関わらず、懸命に土のう設置作業や土砂撤去作業等の災害対応に従事した消防団の活動を紹介します。

高浜地区冠水状況



鳶巣地区河川状況



鳶巣地区河川状況



消防団員
募集しています!

出雲市消防団ホームページ <http://www.izumo119.or.jp/dan/>

問い合わせ 出雲市消防本部警防課 消防団係 21-6923

今回は、最前線で現場対応にあたった分団長にインタビューを行いました。

国富分団



分団長 太田 充洋

国富地区内では毎年、川が氾濫した想定で地区の住民の皆さんが参加しての避難訓練を行っている地区もありました。また、毎年のように氾濫する川もあり、団員も水防団活動を経験していました。

今回の災害は普段から想定している河川の氾濫もありましたが、その規模は同時多発的に災害が発生したことで想定を上回るものでした。このため、当分団の団員数では一度に対応することができず、すぐに灘分分団に出動要請をお願いし、依頼のあった複数の現場を同時に対応することができました。本当に灘分分団には感謝しています。

大変な現場でしたが、自分たちが住んでいる地域へ恩返しをしたいという強い思いで団員一丸となり、災害対応を行いました。また、今回の災害活動で、消防団員同士の絆をより一層深めることもできました。

鳶巣分団



分団長 半田 潤治

鳶巣地区では、町内主要道路がわずか30分で川と化し、水位は膝までありました。水路のグレーチングがすべて流され、200メートル川下に転がっており、上流にはバスケットボール大の石が転がっている状況でした。国道431号は土砂等により閉鎖、消防団員自身が被災しており最初は数名での災害対応となりました。今にも2次災害が発生しそうな中、足元が悪く、雨音や重機の動く音でコミュニケーションも取りづらく、隊員の安全を確保するのが大変でした。

日頃から四絡・高浜・川跡分団とは協力体制が取れており、迅速な対応により避難者が安心して自宅に戻れる状態を作ることが出来ました。四絡・高浜・川跡分団員の仲間には感謝しています。



鳶巣地区土砂撤去作業



鳶巣地区土砂撤去作業

高浜分団



分団長 荒木 利宏

高浜地区では、浸水により住宅に取り残された方の救出活動を行いました。

現地に向かうと、水位は膝上まであり、家には妊婦さんと幼いお子さんがおられました。

無事に救出できた時は、消防団員としてやりがいを感じました。

また、ボートを保有する高松分団に協力していただき、早期に救出することが出来ました。改めて分団間の連携の大切さを強く感じました。



高浜地区冠水状況



高浜地区救出活動

朝山分団



分団長 天喰 博生

朝山分団は、床上浸水した住宅からの救助、ボートを用いての避難誘導、また倒木により破損した住宅屋根へのブルーシート張りを行いました。

冠水した道路で雨合羽を着た状態で歩くのは、非常に歩きづらく、溝等も見えないことから恐怖を感じながらも活動を行いました。

今回の活動をとおして、地元の方々の為に、お役に立てて良かったです。また、団員の中には、自宅付近で被害があるにもかかわらず、団活動を優先してくれた団員もおり、全団員が地元を大切にしていると、とても強く感じました。



朝山地区ブルーシート張り



朝山地区ブルーシート張り